

大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 ダボス会議 Global Shaper, Aillis Inc. 執行役員,

LIFULL 財団 Chief of Staff

御名前 野村 将揮 様

1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 多様かつ多彩な期待を統合し具象化させることを通して、大阪・関西万博の以前以後を問わず、ある種の明るさや前向きさが社会にもたらされることを望みます(副次的とも捉えられ得ますが、この種のものこそ財産になるであろうという考えです)。あくまで一例ですが、人類が遠くない将来において、宗教、民族、国家といった対立軸に次いで向き合わなければならないであろう「世代」というパラダイムの取扱いについて、この6年間でこの国が何かを提示できる可能性は、小さくないのではないのでしょうか。そう、万博はすでに始まっていると言っても過言ではない!(過言)

2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例:最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- コンテンツを考えるに当たっては、その理念的支柱の純度と強度こそが肝要と理解しております。したがって、(黙示的に自己目的化されがちな)執着や利害を内破し削ぎ落とす意識的努力と、理念を何かしらに結実させるための目的合理的性が不可欠だと思います。むずかし。
- 上記の前提で、「いのち輝く未来社会のデザイン」を考えるに当たって、まずは、「いのち」を取り巻く哲学的問いと正面から向き合う必要があると感じております。大阪・関西万博では、存在としての個人を規定してきた諸般の概念(時間、場所、言語、身体、意識など)の超克を積極的に志向・試行してもらえたらと思います。技術革新の彼方で、他者の内在化や社会との融和の新たなあり方(つまり、主体としての自己の解体・解放と再定義)の可能性を指し示すもの。これはおそらく(それこそ従前の「人類」そのものを揺るがす)至上のコンテンツになるだろうと思います。ミケランジェロの視点で天井画を描いてみたり、ウサイン・ボルトの疾走スピードを体感したり。もちろん、構造的暴力の意味合いを考えることもできるでしょう。

3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例:会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 一例ですが、待ち時間が待ち時間ではなくなるような工夫を考案する方が現実的かとも思います。会場中で「人志松本のすべらない話」がエンドレス再生されているのもいいかも。フランス語であの“間”を再現できたら、それこそ日本文化への理解の深化につながりそうですし、日本文化の新たな地平が垣間見えそう。そもそも笑いに普遍性ってあるんでしょうか。

4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- モ●ゾー先生とキ●コロ先輩のことはほとんど記憶にないのですが、大阪・関西万博はぜひ記憶に残りまくるたのしいうサマシングに、お願いします!

以上